

# 平成 14 年 度 同 窓 会 行 事 ・ 業 務 報 告

## 1. 総括

設立 30 周年で高揚された「母校の興隆進展に対する意欲」を事業化する使命を受けた本年度であったが、その事業内容を統括すると次のようになる。新会長に就任された小林会長のもと、会務執行担当となる常任幹事に多くの若手を起用して世代交代期の組織強化に努めた。基本方針として「母校支援団体への飛躍」を掲げ、「大学、支部および本部の連携強化」および「母校支援事業の推進」に重点をおいた事業を展開した。また、会務執行上重要となる事務局に常勤事務員を配置して機能強化を図った。

このような方針で企画した各事業は、次年度から実施するものも多いので、現段階でそれらの成果を評価することは出来ないが、柴田顧問および多くの役員から寄せられた意見から判断すると、本会にとって有効と言える事業展開を行うことができた。

## 2. 重点事業

### 1) 地域懇話会

大学教職員および同窓会本部と地域支部との連携強化を目的とし、8月の工大セミナーに合わせて道内7地区および青森にて地域懇話会を開催した。時間的に余裕のない企画であった関わらず、各地域支部のご協力により8地区で合計126名の参加があり、各地域にて新学科・新キャンパスの概要、学生募集や就職斡旋の状況などが説明された。なお、参加者から寄せられた同窓会運営に関わる意見・要望は、出来る限り反映したいと思います。

地域連携強化に関わり、小林会長には網走、旭川および稚内の3支部へ出向いて頂きました。

### 2) 大学との定期懇談会

本年度の同窓会運営方針、新たな事業内容、現在検討中の事業などについて、その内容を説明すると共に大学への要望を申し入れた。運営方針や事業内容に関しては概ね好評を得た。大学側からは、学生募集広報、教育内容検証、社会人入学の奨励、技術相談窓口の充実、同窓生講演の奨励について要望があった。

### 3) 同窓会表彰制度

30年経過で社会的に向上している会員を褒賞したい。長年に渡り同窓会に貢献された会員に対して感謝したい。若手会員を育成したい。この3点から表彰制度を創設したい。結果は本日審議。

### 4) 学生活動支援制度の検討

母校の社会PR、同窓会との親近感の醸成、クラブOB会の活性化を目的とし、大学のクラブや個人の正課外活動を支援する制度を検討した。以前から常任幹事会判断で活動助成を行っていたが、その制度化を検討した。この制度はH15年度より実施する。

### 5) 同窓会 Web の充実

Webは情報発信の重要メディアとなるばかりでなく、同窓会業務の効率化にも寄与できるものである。道内私大初でスタートした本会Webの充実を図るためにWeb-WGを設置し、現在の本部ページを部分的に充実させつつ、学科支部ページを開設した。さらに、WGで次年度公開に向けた新たな本部ページの構想を検討し、その基本的なページを作成した。なお、Webページの随時更新に対応できるように常勤事務員をWeb作成担当とした。

※これらの事業は多くの大学教職員、本部役員および支部役員の多大なるご協力をもって実施できたものでありますので、ご協力頂いた方々に改めて感謝申し上げます。また、これらの事業は会員からの提言および他大学の事業を基に企画したものでありますので、今後も貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。

## 3. 年間事業内容

平成14年度の具体的な行事・業務の内容は次の通りである。